

## ■ 概況

4/13～4/19のNYMEX・WTI先物市場は79.16～82.52ドルの範囲で推移した。

20日は、景気先行き懸念が拡大する中、続落した。この日は、フィラデルフィア連銀の4月の製造業景況指数の市場予想を上回る悪化報告、ニューヨーク連銀総裁の利上げ継続発言等があり、株式市場も下落した。5月限終値は前日比1.87ドル安の77.29ドルだった。

週末21日は、景気後退観測は後退し、反発した。この日は、安値拾い、あるいは限月繰り上げに伴う持ち高調整の買いにも支えられた。期近物となった6月限は0.50ドル高の77.87ドルで取引を終えた。

週明け24日は、続伸した。引き続き、中国経済の回復に伴う世界的な景気後退観測の後退、また、ドル安に伴う原油先物の割安感、持ち高調整の買いに支えられ値上がりした。6月物は週末比0.89ドル高の78.76ドルで取引を終えた。

25日は、3営業日より反落した。米国経済の先行き懸念の拡大に加え、為替市場のドル高進行に伴う原油先物の割高感から、OPECプラスの追加自主減産直前、3月末水準まで値下がりした。6月物は、前日比1.69ドル安の77.07ドルで取引を終えた。

26日は、大幅続落、3月下旬の水準となった。米国の景気悪化懸念、金融システム不安の再燃、相次ぐ企業決算の低迷などを受けて、値下がりした。ただ、米国原油在庫の予想を上回る取り崩し報道で、買い戻しの動きもあった。6月物の終値は、前日比2.77ドル安の74.30ドルだった。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場（6月

渡し）は、4月13日～19日の間、84.20～86.80ドルの範囲で推移した。4月20日82.30ドル、21日81.00ドル、24日80.50ドル、25日82.40ドル、26日81.00ドルで推移した。

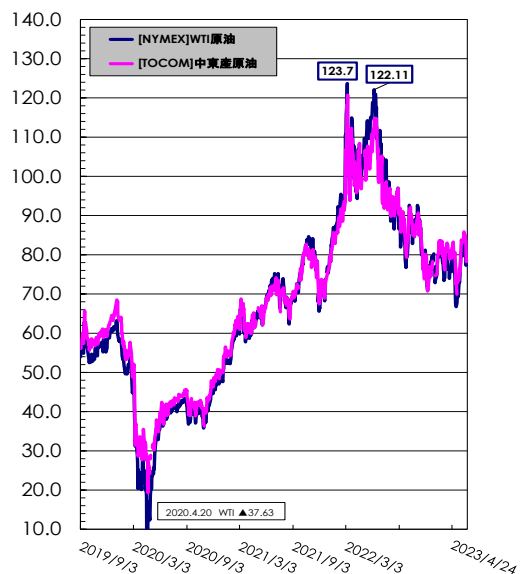
為替は、4月13日～19日の間、132.60～134.47円の範囲で推移した。4月20日134.92円、21日134.32円、24日134.12円、25日134.34円、26日133.80円で推移した。

財務省が4月27日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、4月上旬の原油輸入平均CIF価格は、69,737円で、前旬比2,617円安、ドル建て84.10ドルで前旬比1.18ドル安、為替レートは1ドル/131.84円だった。

そのような中で、4月24日時点の価格は、ガソリンが前週比0.1円の値下がり、軽油も同0.1円の値下がり、灯油は同1円の値下がり（18リットルベース）であった。ガソリンは2週連続の値下がり、軽油も2週連続の値下がり、灯油は2週連続の値下がりとなった。ガソリンの全国平均価格は168.1円であった。また、次週も燃料油価格激変緩和対策が発動され、補助金の支給額は16.8円となった。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	4/16 ~ 4/22	2,865 ▲3	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	77.3 ▲0.1	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	4/22	11,137 ▼-128	▲ -
価格	中東産原油 (TOCOM) (\$/ bbl)	4/24	78.41 ▼-6.72	▼-18.4
	WTI原油 (NYMEX) (\$/ bbl)	4/24	78.76 ▼-2.07	▼-19.8
	原油CIF単価 (\$/ bbl)	4月上旬	84.10 ▼-1.18	▼-24.08
	①原油CIF単価 (¥/ kl)	"	69,737 ▼-2,617	▼-13,830
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	131.84 ▲3.05	▼-9.03
	外国為替TTSレート (¥/\$)	4/24	135.12 ▼-0.23	▼-5.31

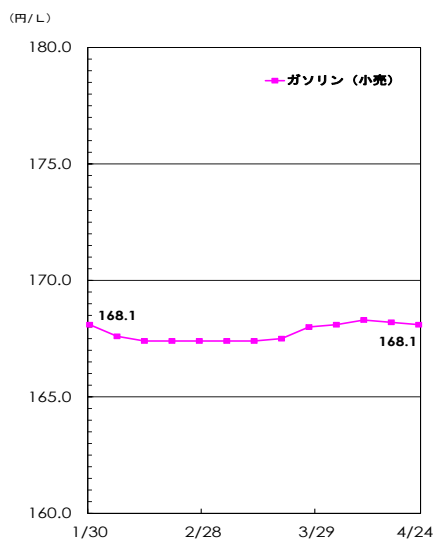
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	4/16 ~ 4/22	896 ▲ 39	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	817 ▲ 24	▲ -	
	輸出	"	90 ▲ 41	▲ -	
	在庫	4/22	1,663 ▼ -11	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	4/18 ~ 4/24	74.8 ▼ -0.5	▼ -3.2	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	4/18 ~ 4/24	73.0 ➡ 0.0	▼ -5.4
		(TOCOM/中部)	4/24	75.4 ▲ 0.4	▼ -0.4
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/24	168.1 ▼ -0.1	▼ -4.7	

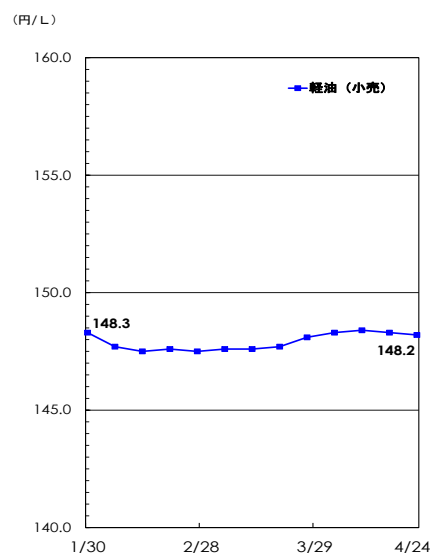
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

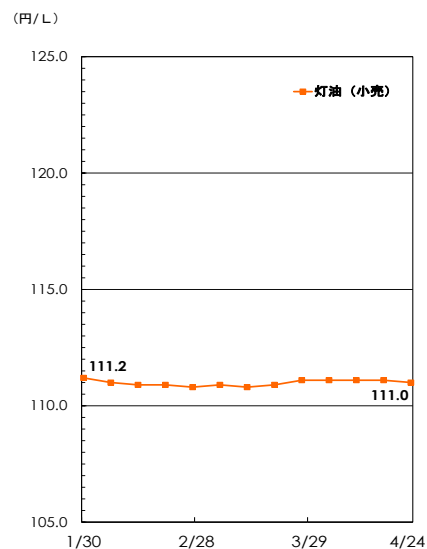
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	4/16 ~ 4/22	770 ▲ 85	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	619 ▲ 83	▲ -	
	輸出	"	82 ▼ -1	▲ -	
	在庫	4/22	1,363 ▲ 69	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	4/18 ~ 4/24	75.7 ▼ -0.5	▼ -2.2	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	4/18 ~ 4/24	78.0 ▼ -0.8	▼ -12.5
		(TOCOM/中部)	4/24	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/24	148.2 ▼ -0.1	▼ -4.4	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	4/16 ~ 4/22	166 ▼ -9	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	170 ▲ 67	▲ -	
	輸出	"	6 ▲ 6	▲ -	
	在庫	4/22	1,262 ▼ -11	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	4/18 ~ 4/24	75.5 ▼ -0.4	▼ -2.3	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	4/18 ~ 4/24	75.0 ➡ 0.0	▼ -1.3
		(TOCOM/中部)	4/24	76.3 ➡ 0.0	▼ -1.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/24	111.0 ▼ -0.1	▼ -2.9	



■ 関連情報

1 海外/原油

当週(4月20日～26日)のWTI石油先物市場は、20日の77.29ドルで始まったが、景気の先行きをめぐる観測が交錯し、不安定な動きを示した。週明けは、景気悪化観測が高まり、火曜から続落、26日の6月限の終値は74.30ドルと3月下旬の水準まで低下した。

4月26日発表の21日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国国内週間在庫統計によると、原油在庫は前週比510万バレル減と、市場予想(150万バレル減)を上回った。ガソリン在庫は240万バレル減、中間留分在庫は60万バレル減だった。また、EIAによると、4月24日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比0.7セント値下がりの1ガロン3.656

ドル(130.3円/ドル)と4週ぶりの値下がり、ディーゼル小売価格は、前週比3.9セント値下がりの1ガロン4.077ドル(145.4円/ドル)と2週ぶりの値下がりであった。

ペーカーヒューズ社によると、4月21日時点で、米国内稼働石油掘削装置は、前週比3基増の591基と3週ぶりに増加した。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2023年4月16日～4月22日に休止したトッパー能力は23.4万バレル/日で、前週に対して6.8万バレル/日減少した(全処理能力は333.1万バレル/日)。

原油処理量は286.5万klと、前週に比べ0.3万kl増加。前年に対しては19.8万klの減少。トッパー稼働率は77.3%と前週に対して0.1ポイントの増加、前年に対しては2.3ポイントの減少となった。

生産は前週に比べて灯油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/4.5%増、ジェット/8.3%増、灯油/5.0%減、軽油/12.4%増、A重油/17.6%増、C重油/32.5%増。今週のC重油の輸入は0.6万kl(前週比0.6万kl増)。軽油の輸出は8.2万kl(前週比0.1万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は前週に比べて全ての油種で増加した。前年比ではC重油が減少し、その他の油種で増加した。ガソリンの出荷は81.7万kl(対前週3.1%増)と2週振りに増加した。ジェット10.1万kl(対前週30.1%増)、灯油17.0万kl(対前週63.9%増)、軽油61.9万kl(対前週15.5%増)、A重油

20.0万kl(対前週7.9%増)、C重油13.7万kl(対前週4.0%増)。

(単位:千kl)

	今週 (4/16 ~ 4/22)	前週 (4/9 ~ 4/15)	前週比	
ガソリン	817	793	▲ 24	(3%)
ジェット燃料	101	78	▲ 23	(29%)
灯油	170	103	▲ 67	(65%)
軽油	619	536	▲ 83	(15%)
A重油	200	185	▲ 15	(8%)
C重油	137	131	▲ 6	(5%)
合計	2,044	1,826	▲ 218	(12%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

4月22日時点の在庫はジェット、軽油、C重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはガソリン、ジェットが減少し、その他の油種で増加した。

ガソリンは166.3万kl、前週差1.1万kl減。前年に対しては1.5万kl少ない。

灯油は126.2万kl、前週差1.1万kl減。前年に対しては13.7万kl多い。

軽油は136.3万kl、前週差6.9万kl増。前年に対しては15.8万kl多い。

A重油は70.0万kl、前週差0.8万kl減。前年に対しては2.2万kl多い。

C重油は177.8万kl、前週差5.9万kl増。前年に対しては19.3万kl多い。

(単位:千kl)

	今週 (4/22)	前週 (4/15)	前週比	
ガソリン	1,663	1,674	▼ -11	(-1%)
ジェット燃料	774	754	▲ 20	(3%)
灯油	1,262	1,273	▼ -11	(-1%)
軽油	1,363	1,294	▲ 69	(5%)
A重油	700	708	▼ -8	(-1%)
C重油	1,778	1,719	▲ 59	(3%)
合計	7,540	7,422	▲ 118	(1.6%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

4月18日～24日のドル建て中東原油価格は値下がりし、為替レートの円安がわずかにこれを相殺したが、元売会社の円建て原油コストは、2.5円値下がりしたものと見られる。

上記コストに先週の補助金額19.0円を加え、今週の補助金16.8円を差し引いた、4/27～5/10の実質的な元売会社の卸価格は0.3円の値下げとなった模様。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

4月18日～24日の製品スポット市況は、4月11日～17日平均と比べ、ガソリンの海上取引のわずかな値上がり、ガソリンと灯油の先物取引の横ばいを除き、他の取引・油種で値下がりした。

直近週(4/18～4/24)の陸上スポット価格平均値は、前週(4/11～4/17)比で、ガソリンは0.5円の値下がり、灯油は0.4円の値下がり、軽油は0.5円の値下がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(4/18～4/24)に、前週(4/11～4/17)比で、ガソリンは0.1円の値上がり、灯油は0.9円の値下がり、軽油は1.0円の値下がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは横ばい、灯油も横ばい、軽油は0.8円の値下がりだった。

(RIM) (単位: 円/%)

[陸上ローリー 4地区平均]	今週 (4/18～4/24)	前週 (4/11～4/17)	前週比
	レギュラー	74.8	75.3
灯油	75.5	75.9	▼ -0.4
軽油	75.7	76.2	▼ -0.5

(TOCOM) (単位: 円/%)

[期近物/終値 [平均]]	今週 (4/18～4/24)	前週 (4/11～4/17)	前週比
	レギュラー	73.0	73.0
灯油	75.0	75.0	→ 0.0
軽油	78.0	78.8	▼ -0.8

※上記価格は税抜き価格

参考値 (4/18～4/24実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -0.5	→ 0.0	▼ -0.3
灯油	▼ -0.4	→ 0.0	▼ -0.2
軽油	▼ -0.5	▼ -0.8	▼ -0.6
A重油	▼ -0.8		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

4月24日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.1円安の168.1円、軽油も0.1円安の148.2円、灯油は18%ベースで1円安の1,998円(1%ベースでは0.1円安の111.0円)。ガソリンは2週連続の値下がり、軽油も2週連続の値下がり、灯油は2週連続の値下がりだった。

ガソリンについて都道府県別には、値上がりは16都県、横ばいは12府県、値下がり19道府県だった。全国最安値は宮城県161.2円、その次は岡山県の162.7円であった。他方、最高値は長野県の178.5円だった。最も値上がりしたのは群馬県(前週比0.6円高)、横ばいは宮崎県他12府県、最も値下がりしたのは鳥取県(同1.1円安)だった。

次回調査時(5/8)のガソリンの小売価格は、横ばいもしくは小幅な値動きが予想される。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (4/24)	前週 (4/17)	前週比	直近高値
レギュラー	168.1	168.2	▼ -0.1	08/8/4 185.1
灯油	111.0	111.1	▼ -0.1	08/8/11 132.1
軽油	148.2	148.3	▼ -0.1	08/8/4 167.4

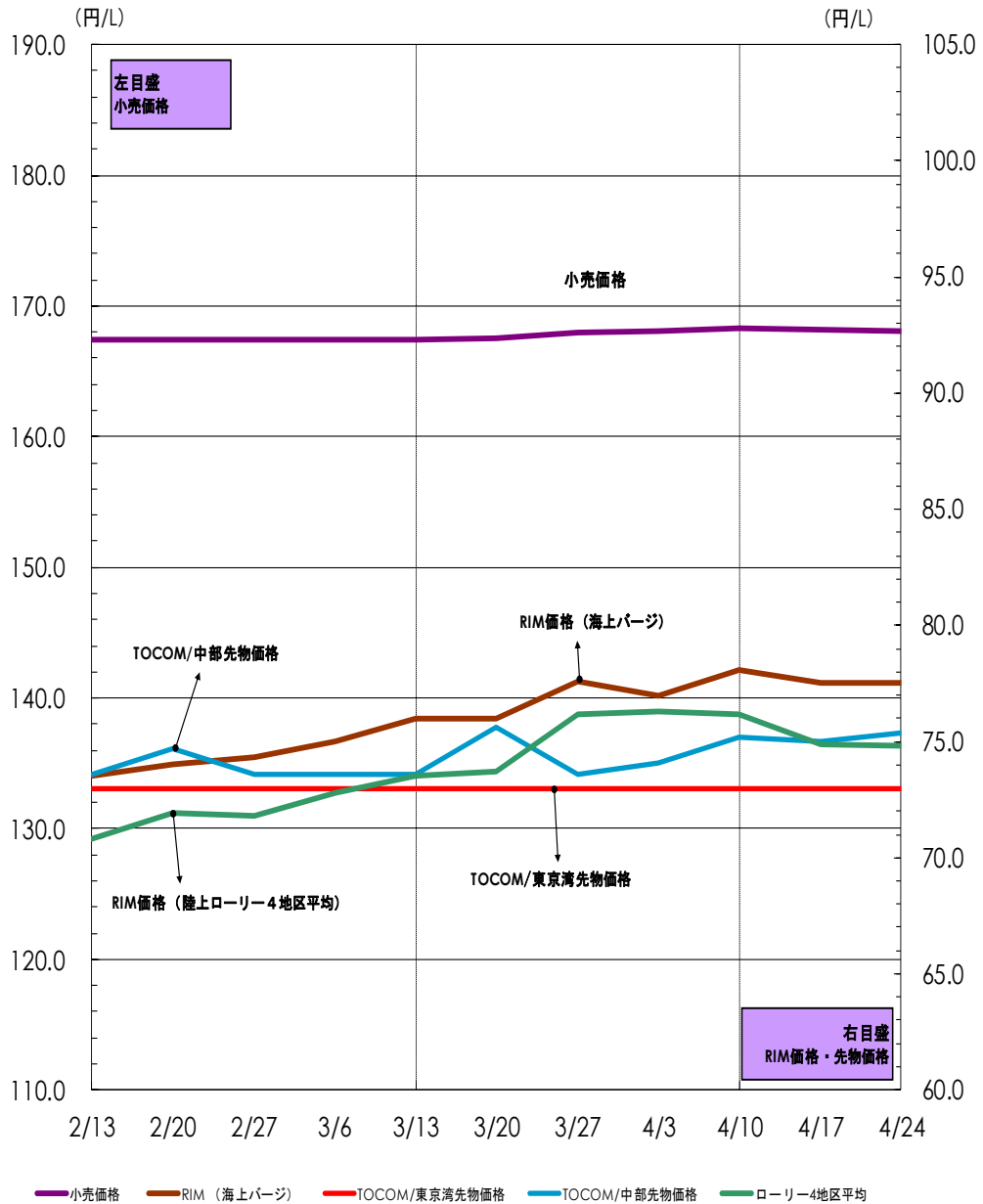
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2023/2/13 ~ 2023/4/24)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格  
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回(2023第5号)の公表は、5/12(金)14:00です。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPIに掲載)。